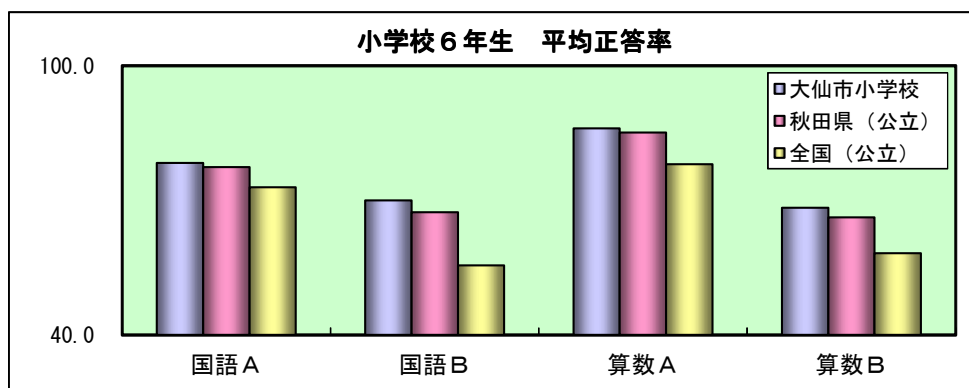


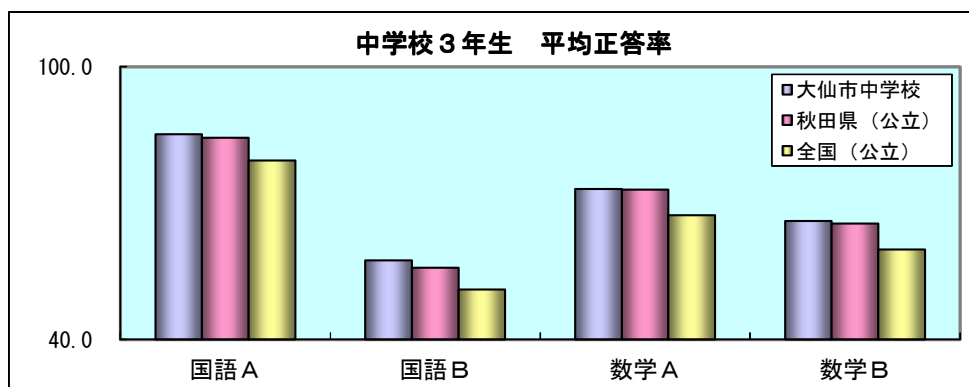
平成26年度全国学力・学習状況調査について

平成26年8月26日 大仙市教育委員会

【教科に関する調査結果】



○全ての教科が、全国及び本県の平均正答率を上回り良好な状況にある。



○全ての教科が、全国及び本県の平均正答率を上回り良好な状況にある。

【概 観】

□全国及び本県との比較における本市の状況は、教科に関する調査及び生活習慣・学習環境に関する質問紙調査のいずれの結果も、小・中学校共に良好な状況にあると捉えている。

〈教科に関する調査について〉

◎小・中学校共に、全ての教科において全国及び本県の平均正答率を上回っており、特に活用に関わるB問題について顕著である。

・小・中連携による9年間を見通した学習指導の充実を図り、各学校における組織的な研究体制のもと、児童生徒主体の学習が進められている。

・各学校において、個に応じた指導等により基礎学力の定着を図るとともに、根拠を基に自分の考えを述べたり、学び合い等で自分の考えを深めたり、活用する力を育成するための授業改善が積極的に進められている。

〈生活習慣・学習環境に関する調査について〉

◎小・中学校共に、ほとんどの質問項目において全国及び本県の平均を上回っており、本市の児童生徒は、望ましい生活環境の中で基本的な生活習慣及び学習習慣を確立し、意欲的に学習に取り組んでいる。

・学校生活の中で、達成感や自己有用感をもたせる機会と場の充実を図ることで、学ぶ意欲を育むとともに、地域人材の活用等、開かれた学校づくりが進められている。

・家庭や地域が好ましいかわりをもって児童生徒の成長を支え、学校の方針等に建設的に協力してくれている。

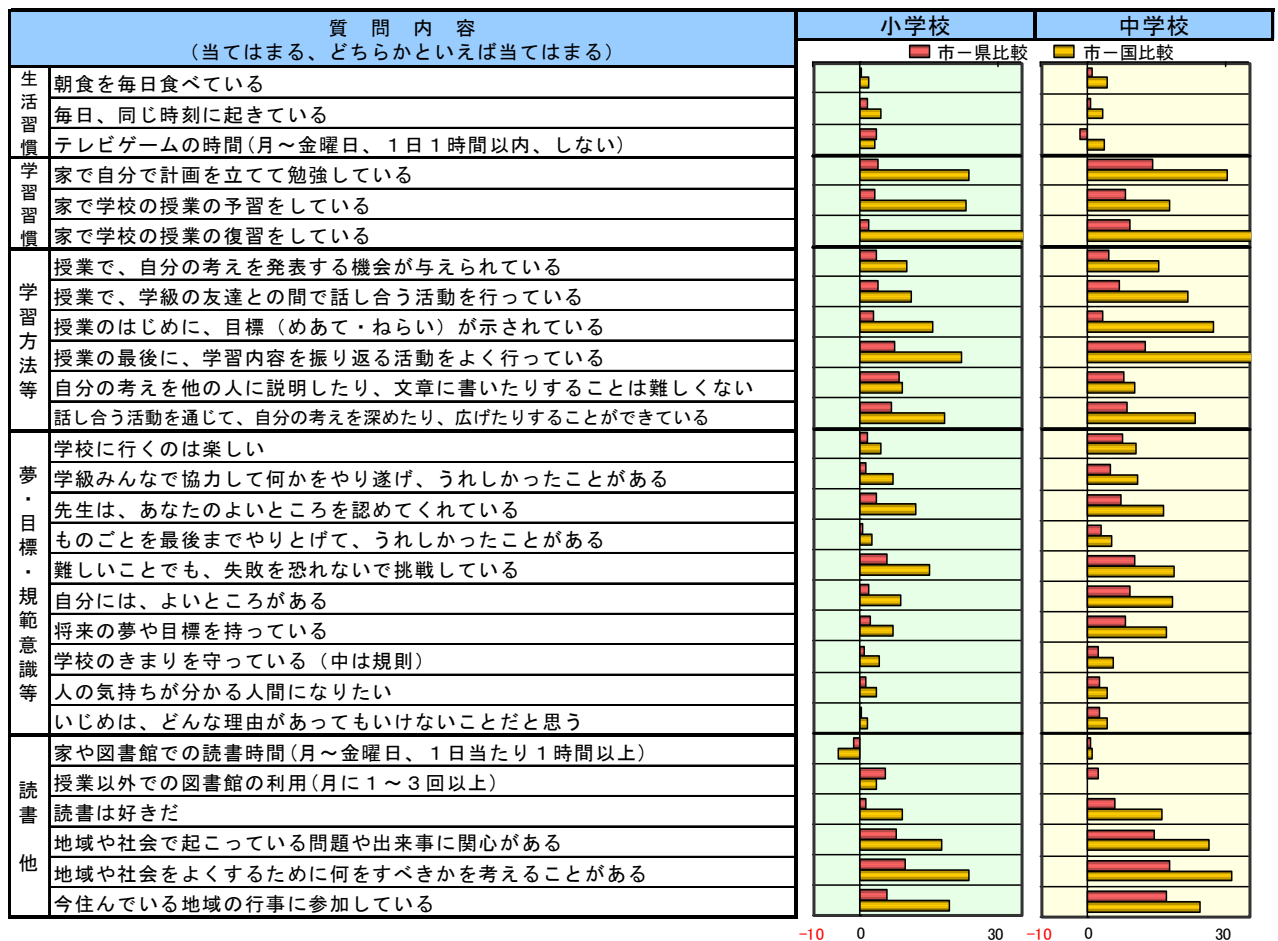
□市教育委員会では、本調査結果を十分に活用し、児童生徒一人一人の課題の改善状況を点検するフォローアップシートや指導方法の改善に生かす資料等を今後も提示し、基礎知識のさらなる定着を図っていききたい。また、小・中9年間を見通した学習指導を一層充実させながら、幼保・高・大との連携も視野に入れ、「総合的な学力」を身に付けた児童生徒の育成を目指して、各学校の取組を支援していきたい。

【生活習慣・学習環境に関する質問紙調査結果】

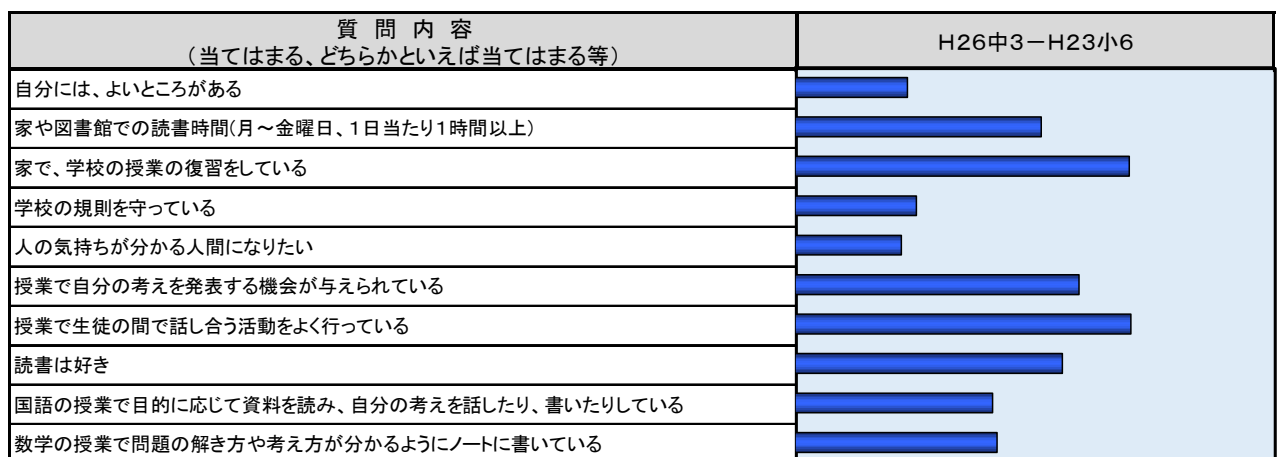
(肯定的な回答状況の主な特徴)

- 中学生について「朝食を毎日食べている」状況が前年度より改善されているが、テレビゲームの時間については、家庭との連携を密にして取り組む必要がある。
- 「自主学習」や「予習」「復習」の実施状況が、全国や本県の平均を上回っており、学校と家庭とが連携を密にしながら「一人勉強」の充実に取り組んでいる成果であると捉えている。
- 授業の中で、「考えを発表する機会がある」「話し合う活動を行っている」「目標が示されている」「振り返る活動がある」と回答している状況が、全国や本県の平均を上回っている。さらに、「話し合う活動を通じて考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答している状況も上回っており、授業改善に取り組んでいる成果であると捉えている。
- 達成感や自己有用感等の意欲に関わる質問項目や、夢や規範意識等の道徳性に関わる質問項目は、小・中学生共に概ね良好な状況にある。また、地域社会への関心も高く、交流・連携を基盤とした体験活動を通して、学ぶ意欲や豊かな心が育まれている成果であると捉えている。
- 読書指導については、小学生の「家や図書館での読書時間」について、家庭や地域との連携をさらに密にして取り組む必要がある。
- 中学3年生(平成23年度小学6年生)の変容については、読書、規範意識などの面で向上が見られる。また、生徒主体の授業や活用する力の育成に関わる授業の取組状況で伸びが見られる。

□児童生徒質問紙(主な項目の全国、本県との比較)



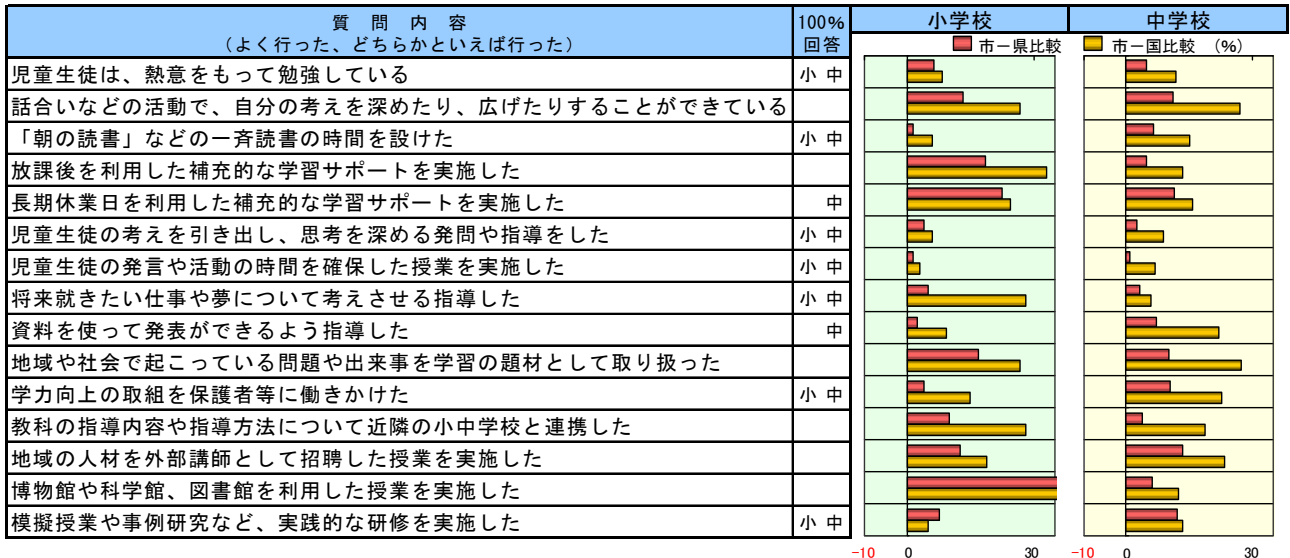
□中学3年生が向上している主な項目(小学6年生の時の結果と比較)



【学校質問紙調査結果】 (肯定的な回答状況の主な特徴)

- 学習指導については、児童生徒の主体性や活用する力を育成する指導、補充的な指導、小・中連携を通じた指導等の実施状況が、小・中学校共に全国及び本県の平均を上回っており、概ね良好な状況にあると捉えている。特に、中学校の「放課後を利用した補充的な学習」と「生徒の発言を確保した授業」「資料を使って発表ができるよう指導」については、前年度の状況から改善傾向が見られる。
- 生き方にかかわる指導、読書指導、研修等についても小・中学校共に全国及び本県平均を上回っている質問項目が多く、学校の積極的な取組姿勢が伺える。また、肯定的な回答は100%となっている。
- 「学力向上の取組を保護者へ公表」「地域人材・地域素材・地域の施設の活用」に関しては、小・中学校共に全国及び本県平均を上回っており、開かれた学校づくりが積極的に進められていると捉えている。

□学校質問紙 (主な項目の全国、本県との比較)



平成26年度 全国学力・学習状況調査 実施状況

- | | | |
|---|------|---|
| 1 | 実施目的 | 児童生徒の学力維持向上及び学習状況の把握 |
| 2 | 実施学年 | 小学校6年生、中学校3年生 |
| 3 | 実施教科 | 国語、算数・数学 |
| 4 | 調査内容 | ①教科に関する調査(国語、算数・数学)
A: 「知識」など基礎学力に関する問題
B: 思考力など「活用」に関する問題
②生活習慣や学習環境に関する質問紙調査
・児童生徒に対する調査
・学校に対する調査 |
| 5 | 実施方式 | 悉皆調査 |
| 6 | 実施期日 | 平成26年4月22日(火) |
| 7 | 調査対象 | 全国(国公立小学校) 20,510校 (実施率99.2%)
秋田県公立小学校 223校 (実施率98.7%)
全国(国公立中学校) 10,649校 (実施率95.5%)
秋田県公立中学校 124校 (実施率100%) |